

事業活動実績報告書

施 設 名	熊野幼稚園
教 育 理 念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

1 事業名	忍者修行
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		体系化された運動プログラムの動きは日々保育の中で担任が行い、子どもが飽きずに集中できるように短時間で楽しく継続する。 鉄棒などを用いた活動は、安全に配慮し、専門指導員の協力を得て行う。	 
		(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		遊び場の急な傾斜に何度も挑戦して登る姿は、日常の中でよく見られる。 身体が育つよう工夫された環境の中で、自分の力で遊ぶおもしろさを知っていく。 その積み重ねにより、集中できる力や、きちんと座る力、友だちを思いやる心が育っていく。	 

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		子どもが遊びたいと思う遊具を活用することで、主体的に遊ぶ姿が見られる。 その中で、「視覚」「聴覚」「触覚」「前庭覚」「固有覚」といった、運動や学習に欠かせない感覚が育まれるよう工夫している。	
		(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		体系的な運動遊びを日々行うことで、しっかりとした身体が育ち、自然と体を使って遊べるようになる。また、集中力や思いやりの心が育ち、仲間とコミュニケーションをとる力も身についていく。さらに、様々な場面で自分の役割を見つけ、取り組めるようになる。遊具がなくても友達とルールを作って遊んだり、年下の子に優しく関わったりと、それぞれが生き生きと過ごす姿が見られるのは忍者修行の成果である。	

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		熊野幼稚園				
教 育 理 念		心身ともに健康で基礎体力のある子の育成				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)					
	健康	◎	人間関係	環境	言葉	表現
1 事業名	忍者修行					
2 事業概要	体系化された運動遊びを通して、幼児期の全身運動を行い、脳を育て、心を育てる。(運動プログラムの動きを遊びにつなげ、遊びの中でも繰り広げられる形を考えた結果が「忍者修行」である)					
3 対象学級(クラス名) 対象人数					全園児	200 名
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況				
		全教員が運動プログラムを学ぶことから始め、次に、元々あるカリキュラムの中にどのように運動プログラムをいれていくか検討を行う。全ての園児が主体的に取り組み、「できなかったことができた」という体験を幼児期という脳もからだも一番育つ時期にみんなが味わえるようにする。教職員では不足している部分を、専門指導者により補う				
計画時	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 体系的な運動プログラムは奥が深く、短時間の研修ですべてを理解することは難しい。また、外部講師による限られた指導のみでは、十分な身体の育ちにはつながらない。日々の保育の中で、動かす部位を意識したり、ゆっくりとした動作を取り入れたりすることで、遊びとして楽しみながら取り組むことができた。その結果、すべての子どもに育ちが見られた。			
	5 事業のねらい	子どもが通年通して飽きることなく、運動を子どもの力によって能動的に行なうような環境づくりをし、好奇心、やる気、達成感、自信、集中力を育む。				
計画時	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 一回の取り組みでの成果ではなく、毎日楽しく継続することが子どもの育ちにつながる。そのためには、教員が理解し、日常の中で継続して取り入れることが重要である。また、危険を伴う場合を除き、肯定的な声かけを心がけることで自信が育まれ、集中力や意欲をもって取り組む姿が見られるようになった。			
	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 毎日の忍者修行(15分程度) 月2回の専門指導員との忍者修行を通して、身体・頭脳・心をバランスよく発達させる子ども同士の遊びで繰り広げられている忍者修行 忍者に憧れを抱き、忍者を意識して活動する。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ●主体的に行う様々な修行プログラムの中で、意識しないと動かさない身体の部位まで動かせるようにすることで、身体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ●戸外遊びで忍者修行のプログラムを取り入れ、子どもたちが自主的に遊びを広げられるようにする。ワクワクドキドキした遊びの中に、ゆっくり・そーっと・静かに動くなど抑制する動きが加わることで遊びが深まる。戸外遊びの中での声掛けを工夫し、体の動きを抑制する力を養えるように、動きを止めたりゆっくり動いたりする経験やそういう行動が強化される経験を積めるようにすることで、ひとりひとりに落ち着きが表れ集中するようになっていくことを目指す。				

事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 日々の忍者修行の積み重ねにより、「ゆっくり・そーと」といった動きを抑制する力が育ってきている。また、戸外遊びの中に抑制の動きを取り入れることで、遊びがより楽しく深まっている。さらに、抑制する動きが苦手な子ども、友だちの姿に影響を受けながら徐々にできるようになる変化が見られた。 身体のコントロールが身につくことで、遊びの中でも様々な身体の使い方が広がっている。
	7 環境構成例	プログラムにある動きを、用具なども用いて行う。 子どもが飽きずに集中できる短い時間で、楽しく継続して行うようにする。 子どもの様子を見ながら、プログラムを組み合わせた複雑な動きは専門指導員の力を借りて行う。 新たに導入した遊具を活用し、子どものやる気を起こす。新たな遊具の遊びは、運動や学習に大きくかわり必要不可欠な「視覚」「聴覚」「触覚」「前庭覚」「固有覚」が育まれるように考えられている。
計画時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 戸外では、魅力的な遊具で子どもが主体的に挑戦する姿が見られた。また、抑制する力の育ちにより、見守りの中で安全に遊ぶことができ、様々な感覚の育ちにつながっている。さらに、暑さや雨天時には室内でも運動プログラムを工夫して取り入れることで、継続して身体を動かすことができた。 外部専門指導員による活動は、子どもの意欲を高める機会となった。
	8 期待される効果児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 自分の身体を使って、自分の力で遊ぶおもしろさを知る 集中しようと思ったら集中していられる身体、きちんと座っていられる身体、友だちを思いやれる身体に育つ 人と比べるのではなく、自分自身の変化・成長を感じられるようになる。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 計画の通り、集中して取り組む力や、きちんと座る力、友だちを思いやる姿が見られるようになった。姿勢を保って座ることや集中できる時間には個人差があるが、それぞれの成長に応じて認める声かけを行っている。 また、互いを比べるのではなく、それぞれの良さを認め合う姿が育ってきている。 その結果、活動が深まり、友だち同士で対話しながら進める姿が多く見られるようになった。
9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 子ども一人ひとりに違いはあるが、日々忍者修行に取り組める環境の中で、すべての子に身体の育ちが見られた。様々な特性の子どもがいる中で、体系的な運動遊びを継続することで、遊びに主体的に関わる力や集中力、思いやりの心、仲間とのコミュニケーション力が育まれている。 また、様々な場面で自信をもって自分の役割を見つけ、取り組む姿が見られるようになった。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません（別紙は任意様式）。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。